

タイトル:平成 24(2012)年度 研究セミナー

日程:平成 24 年 12 月 14 日(金)～16 日(日)

場所:東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階 マルチメディアセミナー室(306)

「現代中国におけるダアワ運動の複層性 — 雲南省昆明市回族社会の事例から」

奈良 雅史(筑波大学大学院人文社会科学研究科歴史・人類学専攻一貫制博士課程)

私は、文化人類学を専攻し、中国の回族と呼ばれるムスリム・マイノリティの研究を行なっています。所属先には、イスラームを専門とする教員がおらず、また中国というイスラーム研究における「周縁」をフィールドとして来たため、私はこれまで自分の分析や解釈がイスラーム研究の枠組みにおいて的外れなものではないか、常に気がかりでした。そのため、今回の中東☆イスラーム研究セミナーを、イスラーム研究の専門家の先生方からコメントをいただくことのできる好機と捉え、参加を申し込みました。結果、セミナーに参加する機会をいただき、とても充実した三日間を過ごすことが出来ました。では、どのように充実していたのかというと、具体的には以下の 2 点があります。

第一に、発表時間と質疑応答の時間がそれぞれ一時間設けられているため、発表者は自分の研究について話す時間が十分にあり、また先生方からコメントをいただく時間も十分にあったということです。一時間くらい発表時間があると、20 分ほどの時間しかない学会発表とは異なり、自分の研究の弱い部分も晒さなくてはならなくなると思います。そうした部分を含めて、イスラームを専門とする先生方からコメントや批判をいただけたことは、私が今後、博士論文を執筆していく上で大きな収穫となりました。また、セミナーに参加して下さった先生方も、それぞれ分野や専門とされている地域が異なり、様々な観点からコメントをいただくことができました。その意味で、私は本セミナーに求めていたもの以上のものを得られました。

第二に、自分とは異なる分野や地域の研究をなされている、同じく博士論文の執筆を目指す同世代の院生の発表を聞くことができたことです。普段あまり接する機会のない分野の発表を聞くことで、ある事象への様々なアプローチの仕方や分析枠組みを知ることができたことは、今後、研究を進めていく上で良い刺激となりました。また、それだけでなく、それは他分野の発表に対して、有意義なコメントをする能力を鍛える場ともなりました。それは必ずしもバックグラウンドを共有していない研究内容に対して、いかに少しでも良いコメントをするのかという実践の場という意味だけでなく、様々な分野の先生方がどのようにコメントをするのかを学ぶ場でもありました。それは翻って、どうすれば分野の異なる人にも理解してもらえる発表ができるのかを考え、学ぶ機会ともなりました。以上のことから、自分の研究発表に限らず、三日間を通して学ぶところが大きかったです。

以上のように、本セミナーは博士論文を執筆しようとする若手研究者にとって、非常に有意義なものです。しかし、私のようにイスラーム研究の「周縁」にいる者は、「中東」の名を冠する本セミナーへの参加を躊躇してしまうかもしれません。実際に、私も当初は「アウェイ」に行くようで、やや気後れました。しかし、セミナーに参加してみると、中東に限らず、アフリカや東南アジアなど様々な地域をご専門とされている先生方がいらっしゃいます。さらに、先生方からは、それぞれの受講者の研究対象地域の文脈を

踏まえた上で、地域間での比較の観点や、より大きな枠組みでの議論へと向かう視座などについて様々な示唆的な批判・コメントをいただけます。ですから、「周縁」にいる方で、本セミナーへの参加を迷っている方がいらっしゃいましたら、どうか迷わず応募していただければと思います。

最後に、この場を借りて、このような貴重な場を設けて下さった先生方、スタッフの皆様、他の受講者の皆様にお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。